

## 平成29年度第1回辰野町総合教育議事録

### 【日時】

平成29年12月15日（金）

開会 午後1時00分

閉会 午後2時45分

### 【会場】

辰野町民会館104学習室

### 【出席者】

10名

#### （辰野町関係者）

辰野町長 武居 保男

辰野町副町長 山田 勝己

#### （辰野町教育委員会）

教育長 宮澤 和徳

教育長代理 根橋 久人

教育委員 村上 陽子

教育委員 垣内 由佳

#### （事務局関係）

総務課長 一ノ瀬 元広

生涯学習課長 原 照代

こども課長 武井 庄治

学校教育係長 桑原 さゆり

## 1、開会の言葉

<一ノ瀬総務課長>

年末のお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。全員おそろいでありますので、平成29年度第1回辰野町総合教育会議を開会させていただきます。本日の会議ではありますが、一部非公開の部分がありますのでご了承ください。次第に沿って進めさせていただきます。はじめに、武居町長のあいさつを頂きます。

## 2、町長あいさつ

<武居町長>

総合教育会議へのご出席誠にありがとうございます。前回までの総合教育会議には副町長として参加させていただきましたが、今回からは町長として出席させていただきます。新副町長と共に心機一転努めてまいりたいと思います。また、傍聴に来ていただいている、マスコミの皆さん、議員の皆さんありがとうございます。

先日の議会の一般質問でも議員の皆さんから多くの質問を頂きまして、今後の動向が注目されている状況であります。私自身も選挙活動もあり、副町長を辞したあとの状況は把握しきれっておりません。ただ、先日、教育長からはあり方検討委員会の提言書が提出されたいきさつ等は伺っております。この問題を考えるとき町全体の小中学校のあり方とされていますが、どうしても川島小学校の問題がクローズアップされてしまいます。このことについて、皆さんそれぞれの哲学、教育に対する考え、人とのつながり、さまざまなことを絞りあって出来上がったものが先日出された提言書であると思っております。またここで、そこで絞ったものをさらに絞りきっていただけたらと思います。それだけに関わっていただいた方の思い、労力は計り知れないものだと思っております。中身を理解し踏み込んだときに、どうしても自分自身でも決めることができない項目、案件もございまして、私自身納得させていただき作業をさせていただいています。「町長、○か×かはっきり答えを出せ」という声も聞こえてきますが、大変申し訳ないことにそんなに簡単に答えを出せる問題ではないと思っております。

そこで今日は、一ノ瀬総務課長からもありましたが、一部非公開とさせていただき、みなさんの忌憚のないご意見を頂きたいと思っております。どうか皆さんの生の声を頂けたらと思います。また、選挙活動中に川島区で感じたことですが、川島児童館がなくなってしまったことに対して悔しさを感じている住民の方もいらっしゃいます。当時のしこりがまだまだ残っているのだなと感じました。一方、地方創生・移住定住に向けて教育の問題をおっしゃる方もいますが、私は地方創生と教育は切り離して考えるべきだと考えています。以前、学校は病院と同じで地域から隔絶された社会といわれています。しかし、今は開かれたものになっていくべきであると考えております。地域と結びついた学校、地域と結びついた教育機関、やはり地域との結びつきは無視できないものだと思います。これから皆さんの意見をもらい、また自分で現地へ行き、時間がかかってしまう

と思いますが答えを出していきたいと思います。長くなりましたが、よろしく願いいたします。

### 3、教育長あいさつ

<宮澤教育長>

お忙しい中、今日はありがとうございます。今、町長の思いの一端をお聞きしたなど感じました。新町長、副町長が決まったの第1回の総合教育会議となります。

さて、今日のこの会議は町民が非常に関心を寄せているであろう小中学校のあり方に関する事、新学習指導要領移行に伴う辰野町の教育施策についてそれぞれ忌憚のないご意見を頂いて有意義な会議にしたいと思います。まず、学校のあり方に関してですが、日本全体の人口が減少していくというかつてない現象が起きております。辰野町も人口減少に伴って子供の数も減っていくことが課題となっております。その中で今後5年の辰野町の人口減少の予測は立っております。また、10年先も見越したときにさらに人口、子供の数が減っていくことが予測できます。将来を担う子供たちの将来を見据えて責任のある決断をしなければならないわけでございます。私も議会やさまざまな方とお話させていただいて、学校とはなんだと自問自答する毎日でございます。川島小学校へ行けば、西小学校へ行けば、また本日はある保育園に行ってきました。保育園にいる園児たちの姿を見て、学校って何をやる場所なんだと改めて自問自答しました。しかし、今ははっきりと答えが出ない、そんな状況でございます。

また、新しい学習指導要領の実施が2年後となります。来年の4月からはそれに向けた移行となっております。これはお聞きしているかと思いますが、戦後最大の教育改革となっております。あらゆる面でというといいすぎであるかもしれませんが、さまざまな場面で変化が出てきます。先生方が姿勢を変えればいいんだという問題ではなく、先生だけではどうにもならないものでございます。新しい学習指導要領には条件整備があります。例えば、英語教育やICT教育について先生方は姿勢を変えただけではどうにもならない問題、財政的な問題があと2、3年のなかで必ず出てきます。

本日は、教育委員会側と町側との意見をお互いに出し合って、共通理解をしていただいてこれから先、一致点を見いだしていけるように、有意義な会議になるようにと思います。よろしく願いいたします。

### 4、協議事項

#### (1) 町立小・中学校のあり方に関する提言書について

<宮澤教育長>

資料1をご覧ください。一、はじめにとして、辰野町の5年後から10年後を展望したとき、人口減少に伴い町内の小中学校の児童生徒数も減少傾向が継続することが予想されます。そのような中で義務教育の質的充実を保ち、新しい学校の形をつくる

事を目的に昨年の7月からあり方検討委員会を立ち上げ議論いたしました。

以下の3つの点について検討されました。1、小中学校の配置および通学区に関する事項、2、小中学校の連携のあり方に関する事項、3、小中学校と地域の連携のあり方に関する事項の3点になります。

二、提言として先ほどの3点に関して提言されています。まず、1について、学級規模の最低基準については概ね10名とし、その後も増加の見通しが立たない場合、関係校の統廃合について教育委員会において検討されたい。

<山田副町長>

この資料を見ますと減りが激しいかと痛感しています。特に今年と去年の出生数が100人を切っているところ、とてもショックです。若者の転出が激しいことが一因かと思えます。このことをどうにかしないといけないと思えます。質問ですが、町内の小中学校の1クラスの人数を教えてください。

<宮澤教育長>

こちらの資料2になります。傍聴の皆さんには申し訳ありませんが非公開の資料となっております。こちらは平成30年度の予定のものとなっております。小学校中学校ともに1クラス35人が県の基準となっております。一方、国基準は小学校1年生のみ35人でそれ以上の学年では40人が基準となっております。辰野町では県基準に従って学級編成をしております。

<山田副町長>

将来は辰野中学校も3クラスになってしまうということですか。

<宮澤教育長>

このままいくとそうです。この時点で100人を割ってしまうことがわかっているので町内の小学校を1つにしておもうという議論も出ました。しかし、地域とのかかわりを大切にしてきた辰野町ですので1つに統合してしまうと、地域の支えが切れてしまうのだらうと考え、あえてその道をとらないことを選択しました。

<武居町長>

人口が急激に減っている事実がありまして、これまで5年先、10年先がどうなるかわからないぞと考えると仕事をしてきました。1年後と比べてみましたら、わずかずつでしたがこのようにまとめると激減していることに気づかされます。クラスの人数等の関係で学校を1つにするという意見もあったようですが、それぞれの小学校の歴史等を考えると難しいものだと思います。移住定住の問題をいうならば、

多くの人を呼び込むために辰野町の魅力を上げて人口減少にも歯止めをかけていきたいと思います。

<一ノ瀬総務課長>

教育委員の皆さんはどうでしょうか。

<宮澤教育長>

教育委員の皆さんは検討委員会に毎回出してもらっていました。提言書が提出されて初めて議論を始めたのではなく、1年前から議論をしてきました。

<一ノ瀬総務課長>

それではこの提言書については内容を尊重し、このまま進めていただくということでしょうか。

<全出席者>

異議なし。

## (2) 町立川島小学校のあり方について

<宮澤教育長>

資料 No.2 について今年度の学級編制と加配の表になります。裏面には児童の個人名がありますので会議終了後に回収いたします。

平成29年度と30年度の川島小学校の児童学級数ということで載せてあります。29年度は2・3年生、4・6年生の複式学級と特別支援学級、30年度は見込みですが、1・3年生、4・5年生の複式学級と特別支援学級になります。

次のページの川島地区の15歳以下の児童の状況ですが、本来60名いましたが、町内への転居は9名、町外へは26名でした。

最後に町が各学校の財政負担をしている表です。この資料はあり方検討委員会でも川島区での懇談会でも出していない資料になります。各自でご確認いただければと思います。

<一ノ瀬総務課長>

これからこのことについて意見交換をしていただきたいのですが、ここからは非公開となりますので傍聴の方は退出を願います。

<山田副町長>

この区域外の児童について教えてください。

<宮澤教育長>

町外から通っている児童です。保護者が町内に勤務していることから川島小学校へ通学しています。川島に住居を移すという条件で転入しましたが、いまだ住所はありませんので区域外となります。

<山田副町長>

川島からの転出数の分析を見ると、平成 25 年度から特認校の制度が開始されていますが、転出する家庭の数を見てこの制度の導入となったのですか。

<宮澤教育長>

児童館を閉じたのが平成 19 年度末で、それまでの家庭数等を鑑みて平成 25 年度から導入をしました。転出先を見ると、町の外に出てしまった家庭が 18 もあることにショックを受けました。すべての家庭が川島小学校を理由にというわけではありませんが、保健師として関わる職員によると多くの家庭が川島小学校がネックで転出していると報告を受けています。

<一ノ瀬総務課長>

以上のことを踏まえましていかがでしょうか。

<宮澤教育長>

現在、川島からの転居を減らすために川島地区から違う小学校へ通っても良いと許可している児童が 3 名おります。しかし、川島の外へ出られてしまう方が多いのでそれを減らさなければならないと思います。移住定住でいらしたお子さんは 8 名いるわけでありませうけど、この数の約 4 倍の子どもが出てしまっています。これまでは川島区の子どもの数の方が多かったのですが、来年度からは逆転現象（川島区の児童より地区外からの児童の方が多くなる）が起きてしまいます。

<A 委員>

5, 6 年ほど前はまだ 1 学年 5~7 人おり活気があった。私は、この状況を維持できればなんとか川島小学校を残していても良いのではないかと考えておりました。しかし、現状は先日学校へ行ってきましたが、そのとき授業は低学年と高学年に分かれて 2 つのクラスしか行っていませんでした。これまではなんとかしてとも思っていたのですが、その児童たちを見て本当にこれでいいのかなと思いました。

これから先、辰野町自体の人口が増えていくことは難しい現状であるということをお考えとどのような姿がいいのかと思っています。川島区の方の気持ちもわかりますが、現状を見たときどこかで区切りをつけなければならないと思います。

#### <B 委員>

私も川島小学校は環境も児童も先生もとてもいいと思っていましたが、先日行かせていただいたときに、子ども同士の学びあい、意見の食い違い、けんかや友達の意見に気づかされる等のことがなかなか出来ないのではないかと感じました。やはりこの多感な時期にいろいろなことを経験させてあげたいと思います。子どもたちのことを考えると、残念ですけど統合を考えていかないといけないのでは、と思います。

#### <C 委員>

教育委員としての立場と保護者としての立場と両方考えてみましたら、この少人数であれば勉強は出来るようになると感じましたがこれから先、社会ではコミュニケーション能力が求められる世の中で、地域の大人や先生方とは多くのコミュニケーションはとるかと思いますが、同世代でのコミュニケーションが希薄になってしまうのではないかと感じます。ある程度的人数の中で育っていったほうが社会でその子の力を発揮できるのではないかと感じます。

#### <一ノ瀬総務課長>

今の意見を聞いて町長、副町長としてどうですか。

#### <山田副町長>

直接見させていただいたわけではなく、聞いたお話ですが、やはりさまざまな人とつながるといって経験が希薄になってしまうのだろうと感じます。学校というのは単に勉強をする場ではなく、誰かと接し、生活したり切磋琢磨したりすることも必要であり、そういった教育という点でも川島小学校は難しいのかなと思います。しかし、自分たちの目でも見なければと思いますので、さっそく1月11日に計画していただいたので行かせて頂きたいと思います。

#### <D 委員>

伝統と歴史ある川島小学校が議論の渦中にあるということは誠に残念で悲しいことです。私が小学生のときすばらしく能力の高い児童が多数いたという記憶があります。しかし、時代の流れの中で避けられない状況にあるということは誰もが理解できることです。少人数ならではの手厚い教育が魅力的な川島小学校ではあるも

の、少人数の限界ラインを超えているものと考えられます。

学校としてレギュレーションを満たしていない教育環境に児童において良いのかどんな児童も平等に教育を受けること、また受けさせることが行政、地域がするべきことです。現在の状況が続けると児童はもちろん、町行政にも影響を与えることは必至です。平等性という観点から考えると特定の1校並びにその児童に偏った予算投下が行われることにもなり税金の使い道としてもよろしくない状況です。

このまま時間が経過することは全てのものが疲弊し新たな困惑を生むだけです。速やかに工程を組み決めた結論に向かって進むことが大切かと思えます。ただ、おらが村の小学校がなくなってしまうということには地元にとっては大変な問題です。現在の辰野町の人口構成から見ますとこういった問題が川島小学校特定の問題ではないことがわかります。これは町の保育園、小学校、中学校全てに関わってくる事案です。

<一ノ瀬総務課長>

町長は先日の議会でも、本日の新聞でもこの川島小学校に関する問題の結論についてはまだ出せず、慎重に議論していきたいと発言されていました。それ以外に何かお考えがありましたらお聞かせください。

<武居町長>

先ほど移住定住についても触れました。私はお子さんをもった家庭からの移住定住に関わるお問い合わせがどれくらい来ているか把握しておりません。また、地域の方は川島児童館がなくなるときにいずれは川島小学校もと予測できていたのだらうとも思います。移住定住を考えて問い合わせいただいた方に小学校がなくなってしまうかもしれないことを伝えたら話がなくなってしまうのではないかと。移住定住政策をしているし、学校がなくなるなんて聞いていない、町の対応がチグハグになってしまっているのではないかという声も聞きました。この資料は見事に説得させられる資料になっています。しかし、存続を願う方が作ったらどんな資料ができるのかとも思いました。

また、今回私は僅差での当選をさせていただきました。この川島小学校存続についてはいっさい選挙活動で触れませんでした。川島地区の方からは非常に多くの思いを寄せられました。そのような方たちの思いも票としていただいているかもしれない部分もありますので簡単には決断できません。一点気になるのは、存続を願う方々の中で大きな声を出せる方は私のところへも来ますが、こういった資料や現状を考えたときに限界だなと感じてしまう人は少なからずいるかと思えますが、そういった点はどうか。



< E 委員 >

大きな声を出している方々と一度お話をさせていただきましたが、移住定住でいらした方と地元の人たちとがバラバラになってしまっている印象がある。声を大きく出されている方に押されてしまい、声を出せないでいる方も交え、発言できる場を設けてそういった方の意見も聞きたいという声も聞いた。

< 宮澤教育長 >

一昨日の町の校長会で川島小学校の校長先生から、一部の保護者の方々がさまざまな取り組みをされていることはいいのだが、学校にはなんの相談や報告がないことが残念だといっていました。また、PTA 会長に検討委員会が終わる前のことですが、教育委員会の方へみえてお話を伺ったのですが、PTA が2つに割れていてPTA の理事会をしても意見がまとまらない。相談もなく、知らないうちに新聞には川島小学校の PTA と載ってしまう感じで残念だとおっしゃっていました。

< 武井こども課長 >

事務局からもお願いします。資料を作りながら感じたことですが、私は子ども課長を拝命してから1年と9ヶ月でこのあり方検討委員会が始まると同時くらいに異動してきました。この検討委員会が始まってから川島小学校へ転入を希望して来た方たちには、これから始まるあり方検討委員会で川島小学校についての議論になることは明白で、存続が怪しいですと説明をしています。

次に川島区からの転出人数のデータを見たときに、残っている人は42%でやはり現実はこのようなんだなと感じました。あり方検討委員会の提言書はまとまりましたがここからが正念場だと思っています。

< 宮澤教育長 >

保護者へ転入する前に私のほうからはっきりと存続が不確定と伝えてあります。川島小学校区に在住しているある家庭のお子さんは現在、辰野西小学校へ通っています。その方は、川島区を出るわけにも行かないけど川島小学校にも通わせたくないと言ったと事務局へ来て、「どうにか西小へ」と相談をされてから教育委員会としては送り迎え等を保護者が責任を持つてすることを条件に許可をしました。今までは通学区制度があったので川島小でない学校へ入学するために川島区から出る人たちもいましたが事務局としても考え直し、川島区の現状等を考え、区から出なくても学区外へ通えるように考えを改めた経緯もあります。

< 一ノ瀬総務課長 >

ありがとうございました。この件に関してはさまざまな意見を聞いて慎重に進め

ていかなければならないことでしたのでご意見を頂戴しました。このことについては今日この場ですぐに決めることではありませんので、今後教育委員会、総合教育会議、そして町、さらには町長と議論を進めながら最後には町長にご決断を頂きたいと思います。

### (3) 新学習指導要領と辰野町の教育施策について

<武井こども課長>

新学習指導要領の完全実施を平成32年に控え、これからの2年間を移行期間とします。辰野町内の小学校ではこの2年間で準備する科目は、教科となった道徳、外国語、ICT教育となります。

<F委員>

ICT教育に関し視察等を通して感じたことですが、機械や設備だけでなくそれを活用し教えることが出来る先生が必要であると思います。

<宮澤教育長>

まさにその通りです。物だけ行って、あとは学校でお願いしますというわけには行かないわけです。学校へ機器を届けた後にそれを整備したり調整したりする支援員が必要になってきますし、現場にいる詳しい先生がいなくなったとしてそれでも他の先生が困って使えなくなるなんて事がないようにしなくてはならない。そして、機器が学校にあるのにもかかわらず活用されていないという事態も避けなければなりません。しかし幸いなことに学校現場からは早く町の方で設備を整えてくれと要望が上がってくるほどです。

そうはいつでも、先生方の中でも温度差や苦手とするベテランの先生方への校内研修等も充実させていかねばなりません。支援員には単にICT関係に精通しているだけでなく、教育に関しても熱意がある人でなくてはなりません。近隣の市町村でICT教育が進んでいる学校には必ずすばらしい支援員がいる。

<武井こども課長>

委員の言うとおりでと思います。国の事業に助言者の派遣事業がございまして、今年辰野町として手をあげました。その結果、信州大学の先生が来ていただく事になりまして、その先生と懇談する中でどのように進めていくか模索をしています。教育長が言うようにその先生も、支援員の充実が大前提であるといっています。ICT機器を整備していく中でさまざまな問題も出てきました。単に物を配るだけでなく、限られた予算の中で、優先順位をつけて解決して行こうと思っています。

<山田副町長>

質問ですが英語教育について、英語の授業の時数が増えていく中で小学校には英語の専科を配属していないわけですが、授業はALTの先生が主導で行っていくのですか。

<宮澤教育長>

ALTに頼った授業じゃだめだと思っています。子どもに普段接している担任が行うのが基本です。ALTはあくまでも担任の補助をしていく、これが逆転することはいけないことです。それぞれの学校に英語の免許を持った先生がいるのでその先生を中心として研修等を進めて行っていただきます。また、つくば開成学園高校の先生に保育園へ行ってもらいキッズチャレンジとして英語教育をしていただいています。これが子どもたちに大評判でした。小学校の先生にも見学へ行ってきましたが、感動して帰ってきました。また、現在ALTを派遣していただいているインタラックという会社の方には町内の先生を集めて研修をしていただけることになっております。2年後の完全実施に向けてのことですのでしっかりと準備していけたらと思います。

<山田副町長>

保育園での英語活動を盛んにしていき辰野町の特色としてPRしていきたいですね。

<宮澤教育長>

それはつくば開成学園高校からも言われています。辰野町の幼児教育として英語があるとPRできるようにつくば開成学園高校としても協力したいと言っています。ありがたいことです。

<一ノ瀬総務課長>

根橋さんからご指摘いただいたICTの支援員の充実やALTの3名配置を行うには教育費を加算しなければなりません。辰野町の教育費は他の市町村に比べれば多くなっているかと思います。

時間が迫ってきていますので(3)の新学習指導要領と辰野町の教育施策についてはこれまでにしたいと思います。今出たご意見は今後教育行政に反映していただければと思います。

## 5、総括

### (1) 町長

お疲れ様でございました。また、傍聴に来ていただいたみなさんにおかれましては途中、退席していただいて申し訳ありませんでした。おかげさまで本日出席いただいた委員さんや事務局の心の声を聞けたかと思えます。本日のテーマとして川島小学校のことについてありましたが、ある方に川島小学校があるから川島区の人口減少が起こっているから歯止めをかけてくれと言われ、しかし、伝統のある川島小学校を廃校することで歯止めがかかるということは寂しい気もいたしますので私自身迷っているところでございます。

しかし、町全体のことも考え、辰野町をもっともっと魅力ある町にしていきたいと思えました。年明けには実際に川島小学校へ行く機会もありますし、まだまだ話を聞きたい方もいますので本日は結論を出すことは出来ません。

本日はありがとうございました。

### (2) 教育長

熱心な協議ありがとうございました。辰野中学校の生徒が発行していることも広報の最後のページに小学生中学生にとってアンケートが載っていました。それを見ると辰野町が好きだと答えた子どもが6, 7割もいるんですね。その部分についてとても心強く感じます。子どもたちにこの辰野町がどう映っているのか考えますと、子どもたちは今の辰野町に満足をしているのだと思います。そんな子どもたちにさらにいい環境を与えようとする中で本日の会議があったのではと思います。その中で川島小学校の問題があり、さまざまなご意見がある中で、来月の11日には町長、副町長自ら川島小学校の実情を見ていただけることは大変ありがたいと思います。それを受けてまた協議したいと思います。

そして日々の学び、学習指導要領が変わることについても情報交換が出来たと思います。これから先、子どもの数は減っていきますけど、子どもには未来があります。辰野町を担っていく子どもたちにはより良い教育を提供していきたいと思えます。それには教育委員会事務局だけでなく町ともそして傍聴に来ていただいている議員の皆さんにもご協力を頂きたいと思えます。

年度内にもう一度総合教育会議を開かせていただければと思います。

本日はありがとうございました。

## 6、閉会の言葉

<一ノ瀬総務課長>

以上をもちまして、平成29年度第1回辰野町総合教育会議を閉会とします。あ

ありがとうございました。